

1 単元名 ごんぎつね

2 単元の目標

- 話し合いなどを通して理解を深めながら、興味をもって読もうとする。 (関心・意欲・態度)
- 場面の移り変わりや登場人物の気持ちの変化を、叙述をもとに想像しながら読み取ることができる。 (読む能力)
- 表現したり理解したりするために必要な語句について、辞書を利用して調べることができる。 (言語についての知識・理解・技能)

3 単元について

(1) 教材について

本教材は、ひとりぼっちの小ぎつねごんが同じ境遇の兵十と心を通わせようと努力しながらも、通わせきれない切なさを描いた物語文である。美しい情景描写と素朴な語り口の心理描写は、児童の感受性に強く働きかけ、読み進めるにつれてごんに対する共感が深まっていく。また、場面の移り変わりや登場人物の気持ちの変化を表す情景描写や比喩表現の一つ一つを丁寧に読み込んでいくことで、新たな発見が期待でき、物語文を読み深める楽しさを実感できる教材である。それゆえ、児童個々の考えを取り上げ、活発な意見交換をさせることで、画一的な感想にとどまらず、ごんへの共感や同情、兵十の驚きややりきれなさなどへも想像をふくらますことができると考える。

(2) 児童の実態 (39人)

|   |  |
|---|--|
| 1 | 登場人物の気持ちを表す言葉や文を見つけられるか。<br>見つけられる 34人 |
| 2 | 登場人物の気持ちを想像しながら読めるか。<br>読める 34人        |
| 3 | 物語のもり上がりをとらえることができるか。<br>できる 33人       |

本学級の児童は読書が大好きである。読書の時間を設けると集中して読むことができ、その中心は物語文である。1学期に学習した「夏のわすれもの」(物語文)においても、物語の展開に興味をもちながら読み進め、物語のもり上がりをとらえるのに大切だと思われる文や言葉に注意して読み取ったり、登場人物の気持ちの変化をおさえながら想像を広げて読む楽しさを味わったりしてきた。その結果、登場人物の気持ちを表す表現を見つけたり、物語全体のもり上がりをとらえたりすることができるようになってきた。本単元でも既習の学習を生かして、物語の主題に迫るために、一つ一つの言葉にこだわりをもちながら読み進め、小ぎつねごんと兵十の気持ちを豊かに想像できるような学習活動を展開していきたい。

(3) 研究テーマに迫るために

物語文では、作品に対して児童が最初に感じた思いを大切に扱わなくてはならない。そこで、初めに読むとき、自分の最大限の力を発揮して本に取り組ませるために「一読総合法」の考えを取り入れる。児童は通読を行わず、初めて見た資料を最初から精読し、一語一文、言葉の細部にこだわり、文を丁寧に読み進める。児童が読み取ったことをもとにして教師は授業を構成し、自分の読みと友だちの読みとの違いや共通点を探しながら読みを深める。こうした学習活動を取り入れることで、主体的に読む力を育成し、登場人物の気持ちの変化をおさえ、想像を広げながら読む力を育成したいと考える。また、登場人物の気持ちを探る手段としては、場面ごとにごんの表情を想像させ、その根拠となった文とともにワークシートにまとめさせる。一人読みの際にはサイドライン法を用いて自分の考えを整理しながら読み取り、一人一人が読み取ったことを問答法によって深めさせたい。授業で使用するワークシートには既習の心情曲線法を取り入れ、登場人物の気持ちの変化や行動の理解を深める手段とさせる。

4 指導と評価の計画 (11時間扱い)

| 担当時間         | 主な学習活動  | 関 | 読 | 言 | 評価規準  |
|--------------|---|---|---|---|---|
| 第一次<br>(1時間) | 第1時 学習方法を確認し、題名読みを行う。<br>漢字や語句の学習をする。   | ○ |   | ○ | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学習方法を理解し、意欲をもって取り組もうとしている。</li> <li>・ 新出漢字の練習をしている。</li> </ul>   |
| 第二次<br>(9時間) | 第1時 第1場面前半を読み、ごんの境遇や性格を読み取る。<br>第2時 第1場面後半を読み、いたずらをするごんの気持ちを読み取る。<br>第3時 第2場面を読み、後悔するごんの気持ちを読み取る。<br>第4時 第3場面前半を読み、償いをするごんの気持ちを読み取る。<br>第5時 第3場面後半を読み、償いを繰り返すごんの気持ちを読み取る。<br>第6時 第4場面を読み、兵十の会話を聞くごんの気持ちを読み取る。 |   | ◎ |   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ ごんの境遇や性格を叙述をもとに読み取っている。</li> <li>・ 兵十にいたずらをするごんの気持ちを読み取っている。</li> <li>・ いたずらしたことを後悔するごんの気持ちを読み取っている。</li> <li>・ 償いをするごんの行動から、兵十への気持ちを読み取っている。</li> <li>・ 償いを繰り返すごんの気持ちを読み取っている。</li> <li>・ 会話を聞いているときのごんの気持ちを読み取っている。</li> </ul> |

|              |   |             |  |
|--------------|---|-------------|--|
|              | 第7時 第5場面を読み、やるせなく思うごんの気持ちを読み取る。<br>第8時 第6場面を読み、うなずいたときのごんと兵十の表情を想像し、そのときの気持ちを読み取る。<br>第9時 うなずいたときのごんと兵十の(本時)気持ちについて考える。 | ◎<br>◎<br>◎ | ・ 自分の思いが伝わらないときのごんの気持ちを読み取っている。<br>・ うなずいたときのごんと兵十の表情を想像し、そのときの気持ちを読み取っている。<br>・ うなずいたときのごんと兵十の気持ちについて、読み取りを深めている。 |
| 第三次<br>(1時間) | 第1時 全文を読み返し、感想をまとめ、ガイドブックとして仕上げる。   | ○           | ・ 登場人物の気持ちの変化を整理し、ワークシートをまとめる。   |

## 5 本時の学習

- (1) 目標 兵十の表情の移り変わりや、最後にうなずいたときのごんの表情を想像し、そのときの気持ちを読み取ることができる。
- (2) 準備・資料 第6場面資料、場面のまとめカード、国語辞典
- (3) 展開

| 学習活動・内容  | 指導上の留意点 (評価◎)   |
|--|---|
| 1 前時までの学習を振り返り、本時の学習課題を確認する。<br>兵十とごんはどんな表情をしていたらう。  | ○ 第6場面でのごんの行動とひたむきな気持ちを豊かに想像させるため、「引き合わない」と考えたごんの気持ちを側面掲示物を活用し振り返らせ、本時の学習意欲を高める。  |
| 2 第6場面を音読し、前時に行った一人読みでの読み取りを確認する。  | ○ 一人読みの際に引いたサイドラインを確認することで、兵十やごんの表情を想像した根拠となった表現を振り返り、自分の考えを整理し、自信をもって話し合いに参加できるようにする。  |
| 3 兵十の表情の移り変わりについて考える。<br>・ 憎しみ、怒り<br>・ 喜び<br>・ 驚き<br>・ 後悔、疑問、謝罪  | ○ 児童個々の考えを大切に扱うことで多様な考えを発表させ、読みが深まるように留意する。<br>○ 兵十の言葉や情景描写の中に、兵十の気持ちを探る表現がかくされているので、一つ一つの言葉を丁寧に取り上げることで、児童個々の想像がさらにふくらんだり、確信をもてたりできるように留意する。   |
| 4 兵十の言葉にうなずいたときのごんの表情について考える。<br>・ うれしい [ わかってくれてうれしい<br>やっどぼくの気持ちが伝わった ]<br>・ 悲しい [ 死にたくない<br>何でぼくが撃たれるんだ ]<br>・ さびしい [ やっぱりひとりぼっちだ<br>友達になりたかったな ] | ○ 側面掲示物を活用し、ごんの呼び方が変化していることに着目することで、兵十のごんに対する気持ちの変化していることを確認する。<br>○ 栗をくれたのがごんだと気付いた後の兵十の気持ちにはこの時点では深くふれないようにし、ごんの気持ちと結び付けて考えさせることで、兵十の驚きややりきれなさなども推し量れる感受性に結びつけたい。<br>○ ごんの表情に関しては、兵十の気持ちの読み取り方と深くかかわってくるため、多様な想像ができるので、小グループでの話し合いなどを取り入れることで、先に出された意見にとらわれないように留意する。 |
| 5 兵十とごんが分かり合えたのかについて話し合う。<br>・ わかりあえた<br>(目と目が合って通じ合ったと思われる)<br>・ わかりあえてない<br>(兵十はなぜ持ってきたかはわからないから)  | ◎ 最後にうなずいたごんの表情を想像し、ごんの気持ちを自分なりに読み取っている。<br>(ワークシート、発表)<br>○ ごんの気持ちを想像できない児童には、ごんが幸せだったかどうかを考えさせ、その根拠を押さえることで、ごんの気持ちに結び付けて考えられように助言する。<br>○ ごんの気持ちを自分なりに想像できた児童には、他の意見を聞いて、別の視点から再度ごんの気持ちを考え、根拠を押さえた上で想像力豊かに読み深めるように助言する。   |
| 6 兵十とごんの気持ちを考えて音読する。   | ○ 本時の学習を振り返り、兵十とごんが本当に分かり合えたかどうかを考えることで、想像力を働かせて読み深める物語文の楽しさが味わえるように留意する。<br>○ 兵十とごんが分かり合えたかどうかを話し合うことで、分かり合うことの難しさや、喜び・悲しみなどについても感じ取れるようにしたい。  |
|  | ○ 本時の学習で読み取った兵十とごんの気持ちを考えて音読することで、本時のまとめとする。  |